

技術士包装物流会 月例研究会 講演要旨

日時	平成 30 年 08 月 03 (金) ----- 18:00~20:00
場所	日本マテリアルフロー研究センター 2F 会議室 〒171-0022 東京都豊島区南池袋 パレス南池袋 2 階
演題	食品の輸出入と国際認証
講師	(社) 日本食品包装協会 理事長、(社) 日本生産者 GAP 協会 常務理事 農学博士 石谷孝佑氏

内容	
----	--

1. 概要

折角、欧州との FTA や、アジア太平洋で TPP を締結しても、日本の農産物・食品等が国際認証をとっていないので、輸出がスムーズにできないということが問題になっている。今後輸出を増やしていくときの基本的な問題であり、オリンピック開催時の食材調達においても課題となっている。今後、持続的農業を維持するための適正農業管理である GAP への正しい理解と、食品安全の認証である民間農場認証の GLOBALGAP や公的認証の HACCP をはじめとする国際認証への取組みが不可欠になっている。欧米等のスーパーは農水産物等の調達基準として、輸入する際に安全性や環境対応などの国際認証を求めているのに、日本のスーパーが何も求めているのは問題である。

2. ミラノ国際博覧会での出来事

2015 年に開催されたミラノ国際博覧会で、日本館は日本食や日本食文化に込められた様々な知恵や技が人類共通の課題解決に貢献するとのコンセプトで大人気であった。ところが、第 5 の味覚の「うま味」の優れた象徴である「かつお節」が HACCP 認証を受けておらず、何度も煤乾しているのでベンズピレン汚染の疑いがあるとして使用が差し止められた。

3. オリンピックでの食材・食料品の調達

オリンピックで調達される食品は安全性が担保され、且つ持続可能な農業から供給される必要がある。中国では 90 年代からの「漢方薬」の経験をベースに政府が徹底的に介入して GAP と称する農場の安全認証を短期間に実現した。ロンドン大会では、生産者から輸送、小売り、消費者に至る全てのサプライチェーンを網羅したレッドトラクター認証を活用して実施し、大成功を収めた。牛肉とラム肉では認証数は 24 千で、全農場に占める割合は 82%、65%にのぼる。次ぐリオ五輪でも、国際認証で食料調達等が行われた。

4. 世界の GAP と日本の課題

欧米では勿論、アジアでも GAP は浸透し、アセアンでは GLOBALGAP 並の ASEANGAP が実施されている。アセアンでは食の安全は ASEANGAP で担保されており、日本からの輸出品に対しても GLOBALGAP 認証が求められるようになっている。日本では JGAP 認証があり、GLOBALGAP との同一性は認められなかったが、2020 年のオリパラに限り JGAP 認証、FGAP 評価基準は認められた。

ヨーロッパでは主要スーパーが仕入れ品の安全性を担保するのに独自の基準を設けており、英国の大スーパーであるテスコは NATURE'S CHOICE という農場認証を設け、有機農産物に近い厳し

い認証基準を設けている。特に認証を持たない中小のスーパーでは最低基準である GLOBALGAP 認証の付いたものを販売していることが多い。

**GAP(適正農業管理)と FA(農場認証)と
HACCP(危害分析重要管理点)**

GAP	FA	HACCP
持続的農業 環境保全	食品安全 労働安全	食品安全 リスク評価
公的規範 欧州で義務化	民間農場認証 (任意)	公的認証 欧米で義務化
公的規準 公的査察	評価規準 GGAP JGAP	日本で義務化 CCP OPRP設定
FGAPのGH リスク評価	リスク評価 (作物を収穫すると食品になる)	(食品加工)

以上：文責 研究会担当、坂巻